ほうない

第２号

村上市立保内小学校
強い力 豊かな心
〒959-3107
村上市下鍛冶屋 264－2
TEL　0254-62-2302
FAX　0254-62-5553
school@honaire.murakami.ed.jp

「居場所づくり」と「絆づくり」

校　長　見　原　　仁

４月25日（金）に、学習参観、学校説明会、学校統合説明会、ＰＴＡ総会、学年懇談会を行いました。お忙しい中、多くの皆様からご参観、ご参加いただきました。心より感謝申し上げます。多くのお家の方に見守られて、子どもたちは一生懸命学習に取り組んでいました。特に一年生の落ち着いた学習の様子を見て感心しました。今後も、子どもたちが元気に学校へ登校できるように、ご支援、ご協力をお願いいたします。

４月に職員研修で「居場所づくり」と「絆づくり」について学びました。村上市教育委員会もこのことを重要視していますので、国立教育政策研究所の資料を活用して研修しました。その資料には、次のように書かれています。

「『居場所づくり』とは、児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所を作り出すことを指しています。」

この考え方に基づき、教室では気持ちが落ち着かない、教室に足が向かない子どもが、安心して過ごす場所として、通称「さわやかルーム」（正式名称は「校内教育支援センター」）を設置しています。担当職員（水越）も午前中３時間対応しています。そのおかげで、学校へ安心して登校する子どもがいます。また、これまでも、何名もの子どもたちがここから巣立っていきました。

さわやかルームは、安心して過ごすことができる場所です。さらに、学ぶ場でもあります。担当職員と相談して今日の予定を立て、その予定に基づいて学習します。もちろん、自分の教室で学ぶこともあります。さわやかルームで教室とオンラインでつないで学習することもあります。学び方は様々です。ご相談等がありましたら、いつでも担任にお話しください。

一方の「絆づくり」については、国立教育政策研究所の資料には、次のように書かれています。

「『絆づくり』とは、主体的に取り組む共同的な活動を通して、児童生徒自らが『絆』を感じ取り、紡いでいくことを指しています。」

絆づくりは、子ども同士が行うことです。教員は、その手助けをすることになります。子ども同士が絆を紡いでいくときに、思うようにいかないことは必ずあります。誰とでもいつでも仲良く過ごせるはずがありません。何かの障害があっても、それを乗り越えて絆をつくる。その経験が大切なのです。ですから、私は職員に「どうしたいの？」「何か手伝うことはある？」と子どもに尋ねるように伝えています。

「居場所があるから、次は、もっと絆を紡ぎたい」「絆がたくさんあるから、居場所が増えていく」学校がこのような場所であるために、今後も「居場所づくり」と「絆づくり」を進めてまいります。

「令和７年度　学校運営方針」をお知らせします

１　教育目標　　「強い力　豊かな心」
２　目指す学校像　　「一人一人が輝き、安心して学べる学校」
３　今年度の重点目標　　「学校が楽しいと感じる子どもを育てる」
４　重点目標達成に向けた方策
⑴　学び合う
○　意欲的に課題を解決する子どもの育成
・　意欲的に課題を解決する子どもを育成するための授業改善
○　異なる考えを生かし、より良い考えを求める集団づくり
・　相違点等を確認したり、考えの違いを焦点化したりしながら、より良い考えを創り上げる教師のコーディネート力の向上
⑵　つながる
○　自他の良さを認め合い、差別無く助け合う子どもの育成
・　良さを認め合う活動の充実と、差別を許さない、見逃さない意識の向上
○　異学年交流、学校行事等によるよりよい人間関係づくり
・　縦割り班での活動により思いやりの心、敬う心を育む
⑶　挑戦する
○　目標に向かって粘り強く取り組み続ける子どもの育成
・　目標に向かって取り組むことへの教師や友達による賞賛、価値付け
○　新たなこと、高い目標に挑戦する環境づくり
・　挑戦する場の設定と教師や友達による賞賛、価値付け、励まし
５　教育目標具現化を支える具体的な視点
⑴　地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校
○　学校運営協議会とともに地域と連携し、地域の教育資源を生かした教育活動の実施
○　地域の方々と子どものふれあいによる双方の活力アップ
⑵　教職員の資質向上と働き方改革
○　子どもが安心して過ごすために受容、傾聴、共感の確実な実施と教育相談の充実
○　自己決定を促す３つの言葉の確実な実施
「どうしたの？」「あなたはどうしたいの？」「先生が何か手伝うことはある？」
○　業務の効率化による子どもと関わる時間の増加
⑶　早期発見、即時対応できる生徒指導体制の構築
○　いじめ、不登校、問題行動の早期発見と即時対応、教育相談の実施。
○　「保内小学校 いじめ防止基本方針」に基づく実践と評価。
○　学校、家庭、地域の連携による子どもの健全育成。
⑷　成長を喜び合える特別支援教育の推進
○　一人一人の子どもの教育的ニーズの把握、指導・支援。
○　情報共有と全校支援体制の構築、専門性の向上。
○　子どもの育ちを支える保護者、専門機関との連携。
○　個別の指導計画に基づく指導及び支援についての実践・評価・改善。
○　人間関係づくりや認知機能の力を育む
⑸　人権教育、同和教育の充実
○　荒川中学校区人権教育、同和教育指導計画に基づいた指導。
○　低学年は「道徳」、中、高学年は「総合的な学習の時間」で「生きる」を活用した授業実践。
○　村上市の研修及び「生きる」の授業研修等による、職員の人権感覚の向上。

１年生を迎える会を行いました

５月９日（金）に、１年生を迎える会を行いました。１年生が楽しく学校で過ごせるように、他の学年のお友達との絆を広げるための会です。

最初は、１年生と６年生が手をつないで入場しました。次に、２年生が、１年生への歓迎の言葉を伝え、ダンスを披露しました。その後、３年生が１年生へメダルのプレゼントを渡しました。次からは、縦割り班で自己紹介とゲームをしました。６～１年生が一人一人自己紹介と好きなものを話し、それをクイズにして班で楽しみました。どの班も、楽しそうに活動していました。

最後は、１年生からのメッセージでした。とてもかわいらしい発表でした。その後、再び６年生と手をつないで退場しました。

今年度も、このように縦割り班や異学年交流を充実させたいと考えています。休み時間も、６年生、５年生と１年生が関わる姿が多く見られます。「低学年に優しくしましょう」「高学年の言うことを聞きましょう」と子どもたちに伝えましたが、早速実践しています。ありがたく思っています。

この会の企画、運営は、運営委員会の５、６年生の子どもたちが行いました。また、縦割り班での進行は、６年生が行いました。どの班も、６年生が他の学年の話をよく聞いて、ゲームを上手に進めようと頑張っていました。最高学年としての自覚を感じました。

他の学年とのかかわりがたくさん見られ、絆を広げることができたと感じています。保内小学校の子どもたちの良さを感じることができた、１年生を迎える会になりました。

１年生が交通安全教室を行いました

４／22（火）に、１年生が交通安全教室を行いました。学校を出発し、まず、下鍛冶屋の押しボタン式信号の渡り方を学習しました。次に、原信さんの交差点にある歩道橋の渡り方を学びました。最後は学校前の横断歩道の渡り方を学習しました。晴天の下、１年生は、先生のお話をよく聞いて、左右を確認し、しっかり手を挙げて渡ることができました。道路を渡るときは今日の学習を思い出して、安全に気を付けて道路を渡ってほしいと思います。

２年生が野菜の苗を植えました

５月２日（金）に、２年生が野菜の苗を植えました。今年度も、老人クラブ１１名の方々からご協力いただきました。最初に、ミニトマトの苗を鉢に植えました。鉢に土を入れていただき、苗を植えて水をあげました。その後、プール脇の畑に行き、なす、キュウリ、ピーマン、オクラ、サツマイモを植えました。老人クラブの方々が、子どもたちに上手に支援をしてくださいました。心より感謝申し上げます。子どもたちはこれから水やりなどのお世話をします。夏には、おいしい野菜が収穫できることでしょう。

運動会に向けて応援練習が始まりました

今年度は、５月 24 日（土）に行われる運動会。５月１日から、各教室での応援練習が始まりました。５、６年生の応援団が各教室に出向き、声の出し方や腕の振り方などを教えていました。初めて応援練習をする１年生も、話をよく聞き、大きな声で応援歌を歌っていました。運動会当日に向け、赤白ともに頑張ってほしいと思います。